

前年度の重点目標	社会状況の変化に対応したICT利活用（最終年度） 仲間とともに一人一人が役割をもち活躍するいきいきとした生活の実現		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 本校の特色を生かしたICT環境の活用についてまとめる。 個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用し、関係諸機関との連携や指導と評価の一体化を図る。 小垣江東小との学校間交流や、居住地校交流を計画的・組織的に推進する。 外部専門家との連携・強化を図る。 多様なニーズに応じた進路指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年間の実践を生かしつつ、学校運営方針の項目に沿った枠組みでグループ研究を行い、本校としてのICT環境活用の在り方についてまとめる。 個別の教育支援計画を保護者や関係諸機関と連携するためのツールになるように整えていく。また、個別の指導計画に基づき、主体的な活動を促す学習指導を推進する。 学校間交流は、放課等を活用した日常的な交流を推進し、共同学習へとつながるように直接的な関わりを重視する。また、居住地校交流をさらに進めていく。 教職員の研修や学習会等の成果を、未受講の教職員や地域の小中学校教員が利用する方法について検討する。 各部で進路懇談会を実施し、実態に応じた情報提供と進路に関するニーズの把握に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間の研究により、教職員の学習指導や業務におけるICT利活用のスキル向上を図ることができた。個人の技量によって利用機会が左右されないように、次年度以降もシステム構築に引き続き取り組んでいく。 各教科等の指導において、共通する指標に基づいて個別の指導計画で学習計画を立て、授業を行うことができるようになってきている。 学校間交流では、相手校の教員とアイデアを出し合い授業を作り上げることができた。居住地校交流は、今年度はすべて対面で行うことができた。 小中学校教員向けに作成したデジタルコンテンツは、有効な手だてであることが分かった。刈総セラピストとのケーススタディでは、事前打合せを丁寧に行うことで当日は活発に意見交換が行われ、外部専門家からの新たな視点も得て、指導に生かすことができた。 今年度から部別に進路懇談会を実施した。懇談後に事業所に見学に行った保護者もあり、保護者の意識の変化が見られるようになった。
信頼される学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、医療・福祉関係者、施設・事業所等関係者、地域住民等による学校評価を実施し、学校運営の改善に努める。 地域における特別支援教育のセンター的機能の整備・充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育実践の広報の仕方について整理し、ICTを活用しながら時代に合った方法にしていく。 回答数が増えるように学校評価の方法を検討し、評価結果を学校運営の改善に生かしていく。 要請訪問相談（かりとく相談）、障害乳幼児相談（かもめ相談）などにより、地域の小中学校や障害のある乳幼児の保護者などに積極的な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページに掲載するまでの流れを明確にすることにより、個人情報の漏えいを防ぐとともに、多くの更新を円滑に行うことができた。 アンケート作成アプリケーションを利用して教職員アンケートを実施することで、集計時間が短縮でき、その時間を結果の分析に当てることができた。 相談内容に応じて専門性の高い教員を派遣したり、オンラインを活用した継続的な相談を行ったりして、よりよい支援方法を提供することができた。
一人一人の安全・安心な教育環境の整備に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケアの安全な実施体制の整備に努める。 震災に対する関心を高めるとともに、健康・安全教育の推進に努める。 学校がどの児童生徒にも楽しい学びの場であるように、人権教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護師による医療的ケアを実施し、看護師と教員の連携システムを構築する。教員の研修として、第三号研修を継続実施する。 大震災に備え、避難訓練を実施し、課題を見出す。 いじめ・不登校の早期発見や支援・対応ができるようにするための体制づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 経管栄養の滴下調整を伴った見守りの継続実施や、承認された行為の実施を中心に看護師と協働し、安全に医療的ケアを実施できた。災害時の医療的ケアを今後整えていきたい。 避難訓練の反省から、災害発生時の初期対応や非常食の保管方法等の見直しを行った。 今年度から心と体の健康アンケートを実施した。児童生徒の思いを関係職員間で共有することができた。
総合評価	<p>「一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援」では、教員がそれぞれ専門性向上を目指すことができた。組織としての指導力が向上するように、教員間や地域との連携をさらに強めていきたい。「信頼される学校づくりの推進」では、特別支援教育のセンター的機能を発揮し、地域の中での役割を引き続き果たしていきたい。「一人一人の安全・安心な教育環境の整備」は、医療的ケアにおける看護師と教員との協働、災害に備えた訓練の実施や物品等の整備、人権を大切にした教育の推進に引き続き力を入れていきたい。</p>		